

全国ユース 環境ネットワーク

今年度より、
「全国ユース環境活動発表大会」の
地方大会を開催します。
詳しくは、本誌をご覧ください。



2018年7月31日 仙台にて
「東北地区高校生SDGsセミナー」開催
参加高校生での集合写真

ご挨拶



独立行政法人環境再生保全機構
理事長 福井 光彦

平素は、環境行政及び地球環境基金事業にご協力を賜り、御礼申し上げます。

地球上では、二酸化炭素による温暖化、砂漠化や熱帯林の減少、生物多様性の損失など様々な環境問題が深刻化しています。

こうした中、気候変動枠組条約第21回締約国会議で採択されたパリ協定が2016年に発効しました。我が国も、2030年度には26%（2013年度比）、2050年には80%の温室効果ガスの排出削減を目指していますが、目標達成のためには抜本的な排出削減を可能とする革新的技術の開発だけでなく、目標達成に向けた国民の一層の努力が求められています。

また、2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において、2030年をターゲットとした持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。SDGsは、気候変動や持続可能な消費と生産など17の地球規模の課題解決に向けた目標を掲げ、持続可能な社会の実現を目指していますが、我が国も行政をはじめ、企業、NGO・NPOなどあらゆるセクターでSDGsに対応した取り組みが始まっています。

こうした状況のもと、我が国は、環境だけでなく経済や社会に関わる複合的な危機や課題に直面しているという認識に立ち、環境保全に関する総合的かつ長期的な施策の方向性を示す第五次環境基本計画を今年4月に閣議決定いたしました。基本計画では、課題解決においてパートナーシップの充実・強化や持続可能な地域づくりなどを重視しています。

こうした「気候変動への対応」、「SDGsへの取り組み」、「地域づくり等の強化」を推進していく上で、立場やセクターを超えた様々な主体の連携や長期的視点がますます大切となっており、次世代の担い手であるユースのみなさんの役割が重要となってきたことは言うまでもありません。

環境省、独立行政法人環境再生保全機構及び国連大学サステナビリティ高等研究所では、2015年度から全国ユース環境活動発表大会を開催してきましたが、第4回目となる今回は、実際に活動内容を発表しあい全国大会への出場校を決定する地方大会を8カ所で開催することとしました。地域ごとに環境保全への志を同じくする高校生が交流する機会を設け、日頃の活動内容を披露しあい、同世代が行う活動から多くの気づき、学びを得ることを期待するものです。

今、高校生であるみなさんは、2030年には社会の第一線で活躍する世代になっています。大会への参加を通じて、ユース自らの行動が地球規模の目標達成と密接に結びついていることをより実感いただけるものと考えております。

皆様方におかれましては、本事業の趣旨をご理解いただき、積極的な参加をいただきますよう、お願い申し上げます。

「第4回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会」開催決定！

2019年2月9日(土)～10日(日) 国連大学で開催！

参加高校募集開始！

高校生

今年は、『地方大会』を開催します！

高校生の環境活動は、それぞれの地域での特色があります。そこで、発表の機会や交流の場をより多く創出するために本年度より、『**全国ユース環境活動発表大会 地方大会**』を開催することといたしました。

北海道

東北

関東

中部

近畿

中国

四国

九州・沖縄

ぜひ『地方大会』に参加してください！まずは、みなさんの環境活動を応募してください。

応募の詳細 → 本誌P3～P4をご覧ください。

地方大会の詳細 → 本誌P5～P6をご覧ください。

「全国ユース環境活動発表大会」とは・・・

出会いの場

環境活動を実践する
全国の高校生が
一堂に集まります。

発表の場

創造力を働かせて
行っている自らの
環境活動を発表します。

交流の場

他校の活動を知り、
意見交換をし、
お互いに研鑽しあいます。

参加者より好評の声をいただいた、「第3回 全国大会」の様子をご紹介します。

◇全国大会は東京で2日間開催！

第3回全国ユース環境活動発表大会は、東京で2日間にわたり開催しました。1日目は「全国ユース環境フォーラム」、2日目は「全国ユース環境活動発表大会」と「表彰式」。発表と表彰だけでなく、基調講演やワークショップを実施し、環境活動を推進している先輩や仲間と出会い、交流し、有意義な時間を過ごしました。

◇発表時間は、質疑応答を入れて1校あたりおよそ10分間！

第3回大会では、高校12校、大学2団体が発表しました。それぞれの持ち時間はおよそ10分間！決められた時間の中で、それぞれが創意工夫を凝らした発表をされました。

◇環境大臣賞などを贈賞！

- <表彰> ☆ 環境大臣賞 1校
☆ 環境再生保全機構 理事長賞 1校
☆ 国連大学サステイナビリティ高等研究所 所長賞 1校
☆ 特別賞 2校
☆ 優秀賞 7校



ワークショップで意見交換中！



国連大学での発表の様子

第3回全国大会 参加者の声

<参加した高校生の感想>

全国から来た高校生たちとの交流で新たな知識を得ることができ、自分たちの活動に活かせるヒントも得られたのでとても良い経験になった。1日目は、はじめ緊張しすぎて話せなかったけれど、最後は自ら交流したくさん話すことができました。

<参加した先生の感想>

大切なのは、受け身ではなく、『人のため』『地域のため』『みんなの幸せのため』に自主的に行動できる、興味が持てる課題を個々に見つけ出し、解決していく実行力を身につけることであり、教育者としてその仕掛けを考えるのが大事であることを再認識しました。



環境大臣賞 記念撮影

『全国ユース環境活動発表大会』は、日本全国の高校生が実践している環境活動を発表しあい、そして交流する場です。

全国ユース環境活動発表大会

- <主催> 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
(環境省・独立行政法人 環境再生保全機構・
国連大学サステナビリティ高等研究所)
- <後援> 読売新聞東京本社
- <協力> 環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)
地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
ESD活動支援センター
- <協賛> キリン株式会社
協栄産業株式会社
SG ホールディングス株式会社
三井住友海上火災保険株式会社



第3回全国大会 記念撮影

地方大会

地方大会の詳しいご案内は、本誌のP5～P6をご覧ください！

今年度から『地方大会』を開催し、**発表・表彰・交流ワークショップ**を実施します。
また、『各地方大会』の選考で、上位2団体が全国大会へ出場します！

<地方大会は、2018年11月～12月、全国8地方で開催します！>

北海道大会(札幌)

東北大会(仙台)

関東大会(東京)

中部大会(名古屋)

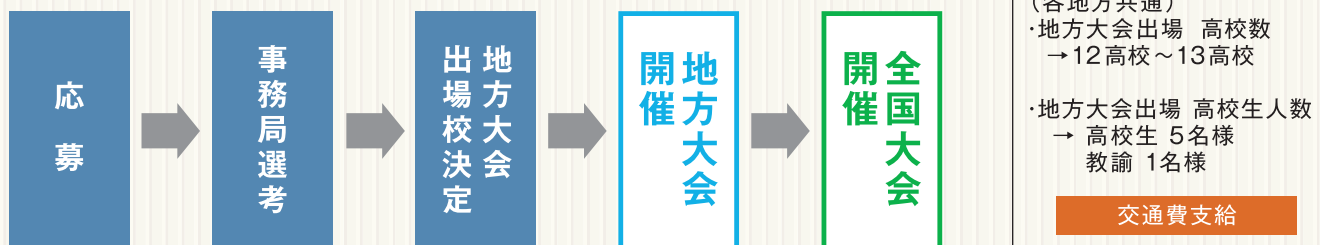
近畿大会(大阪)

中国大会(広島)

四国大会(高松)

九州・沖縄大会(福岡)

<応募～地方大会開催～全国大会開催までの流れ>



第3回全国大会 発表風景



第3回全国大会 表彰風景



交流ワークショップ

全国大会

2019年2月9日(土)～10日(日)
国連大学 ウ・タント国際会議場にて開催決定！

大会概要

- 名称** 第4回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会
- 日程** 2019年2月9日(土)～10日(日)
(1日目) 全国ユース環境フォーラム
(2日目) ユース環境活動発表大会、表彰式
- 会場** 国連大学 ウ・タント国際会議場
(東京都渋谷区神宮前5丁目53-70)
- 出場高校** 『地方大会』にて選出された全国16高校
- 表彰(予定)** 環境大臣賞をはじめ、各賞の表彰をいたします。
○ 環境大臣賞 ○ 環境再生保全機構 理事長賞
○ 国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞
○ 特別賞(高校生選考賞) ○ 特別賞(先生選考賞)

高校生

環境大臣賞



会場：国連大学



環境大臣賞 表彰風景

応募要領

資料請求

『地方大会』に出場するには・・・

まずは今すぐ資料を請求してください！詳しい資料をすぐにお送りします！

本誌同封の送付状の裏面に記載の「大会資料請求用紙」にご記入いただき、事務局あてにメールまたはFAXにてお送りください。

事務局より「応募のご案内」「応募用紙」などの必要資料をお送りします。

資料請求先 / FAX番号:044-520-2192 Email:youth@erca.go.jp
全国ユース環境ネットワーク事務局あて



資料が届いたら・・・



応募

「応募用紙」ほか必要資料を事務局あてにお送りください。

応募締切

2018年10月29日(月) 18:00 必着

応募資格

環境活動を実践する高校生等の団体

※全国の高等学校、高等専門学校(高等学年)、中等教育学校(4～6年生)の部活動、委員会、有志団体など。

※環境活動の実践者が高校生であれば、応募できます。高校や所属団体を通じて応募してください(高校以外の活動団体も可)。

募集内容

地球温暖化対策、低炭素、生物多様性の保全、自然共生、資源循環など「環境」に関わる活動であって、「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標達成に資する活動。

審査基準

高校生等の環境活動に対し、以下の観点から総合的に評価します。

自主性

着眼点

協働

改善度

発信力

※今年度実践している環境活動で応募してください。

選考審査

◇ 応募多数の場合、『地方大会』への出場団体は、書類選考により選出いたします。

◇ 全国の8地方の『地方大会』で選出された2校が全国大会に出場します。

■ 地方大会 各地方 12高校～13高校出場 ■ 全国大会 16高校出場

同じ地方で環境を守る活動をしている仲間たちと交流する機会です！
まずはP4をご覧くださいの上、みなさんの活動を応募してください！

◇ 地方大会は、全国大会の予選という位置付けだけでなく、地域ごとの発表の機会や交流の場の創出を目的としています。当日は、以下のプログラムを実施する予定です。

① 高校生の環境活動の発表

② 表彰式

③ 交流ワークショップ

※ 各地方大会では、12～13高校の参加を予定しています。（1校＝高校生5名、教諭1名）

※ 各地方大会の上位2校に、2019年2月に開催する全国大会に出場していただきます。

※ 応募多数の場合、地方ごとの書類選考により出場団体を選出いたします。

※ 記載は、本誌発行時点での予定です。今後変更となる可能性があります。

地方大会日程

11/11(日)

北海道大会 札幌

TKP 札幌駅カンファレンスセンター



東北大会 仙台

TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台東口



11/18(日)

近畿大会 大阪

TKP ガーデンシティ PREMIUM 大阪駅前



中国大会 広島

TKP ガーデンシティ 広島駅前大橋



12/9(日)

中部大会 名古屋

TKP ガーデンシティ PREMIUM

名古屋ルーセントタワー



九州・沖縄大会 福岡

TKP 博多駅前シティセンター



12/16(日)

関東大会 東京

TKP 東京駅セントラル

カンファレンスセンター

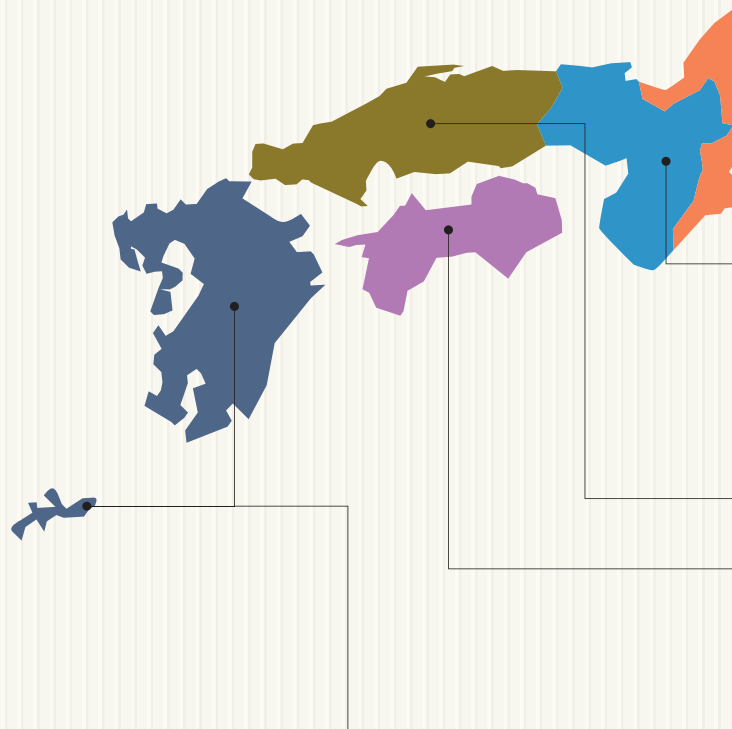


四国大会 高松

サンポートホール高松



地方大会は、
環境省地方環境事務所の所管する
都道府県別に区分いたします。



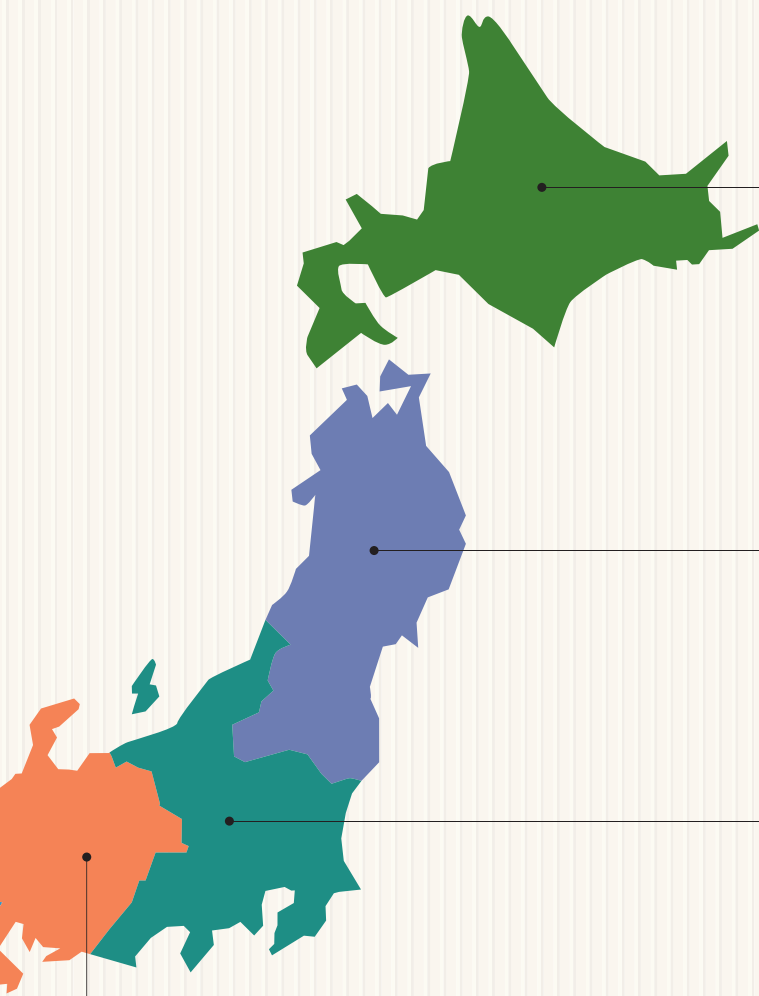
九州・沖縄 地方大会 12/9(日) 福岡

対象都道府県 福岡、大分、宮崎、佐賀、熊本、長崎、
鹿児島、沖縄

開催日 平成30年12月9日(日) 12時開始予定

会場 TKP 博多駅前シティセンター
(福岡県福岡市博多区)

会場で『地方大会』を開催します！



北海道 地方大会

11/11(日) 札幌

対象都道府県 北海道

開催日 平成30年11月11日(日) 12時開始予定

会場 TKP 札幌駅カンファレンスセンター
(北海道札幌市北区)

東北 地方大会

11/11(日) 仙台

対象都道府県 青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島

開催日 平成30年11月11日(日) 12時開始予定

会場 TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台東口
(宮城県仙台市宮城野区)

関東 地方大会

12/16(日) 東京

対象都道府県 茨城、栃木、群馬、千葉、埼玉、東京、
神奈川、新潟、山梨、静岡

開催日 平成30年12月16日(日) 12時開始予定

会場 TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター
(東京都中央区)

中国 地方大会

11/18(日) 広島

対象都道府県 鳥取、岡山、島根、広島、山口

開催日 平成30年11月18日(日) 12時開始予定

会場 TKP ガーデンシティ 広島駅前大橋
(広島県広島市南区)

中部 地方大会

12/9(日) 名古屋

対象都道府県 富山、石川、福井、長野、岐阜、愛知、三重

開催日 平成30年12月9日(日) 12時開始予定

会場 TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋ルーセントタワー
(愛知県名古屋市西区)

四国 地方大会

12/16(日) 高松

対象都道府県 香川、徳島、愛媛、高知

開催日 平成30年12月16日(日) 12時開始予定

会場 サポートホール 高松
(香川県高松市)

近畿 地方大会

11/18(日) 大阪

対象都道府県 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

開催日 平成30年11月18日(日) 12時開始予定

会場 TKP ガーデンシティ PREMIUM 大阪駅前
(大阪府大阪市北区)

東北地区発 高校生が提案する『持続可能な社会づくり!』

主 催 全国ユース環境ネットワーク事務局(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金)

共 催 環境甲子園(NPO法人環境会議所東北)

協 力 環境省東北地方環境事務所 東北地方ESD活動支援センター

協 賛 キリン株式会社 三井住友海上火災保険株式会社

SG ホールディングス株式会社 協栄産業株式会社

2018年7月31日、東北地方で積極的な環境活動を展開する6県12校の高校生が仙台に集まり、研修をおこないました。

基調講演では「持続可能な社会づくりとSDGs」をテーマに、世界と環境問題とのかかわりの変化やSDGs(持続可能な開発目標)採択までの背景、教育の重要性などを学びました。後半のワークショップでは、基調講演で得た知見をもとに高校生自身の活動とSDGsへのつながりについてグループ討論。みずからの活動を評価し「高校生SDGs宣言」にまとめる作業を経て、大きな学びを得ることになりました。東北地区 高校生SDGsセミナーの様子を詳しくレポートします。



基調講演

見上一幸 宮城教育大学名誉教授・前学長

持続可能な社会を求めて常に進むことが大切

宮城教育大学名誉教授・前学長である見上一幸氏が基調講演で登壇。自己紹介の代わりに、単細胞生物として知られるゾウリムシの生物メカニズム、これらによって構築された生態系のおもしろさ、生物を介した物質循環など、興味深い話題から講演がはじまりました。まずは、レイチェル・カーソン(米国の生物学者)の著書「沈黙の春」などの解説を織り交ぜながら、世界と環境問題とのかかわり、われわれがめざす「持続可能な社会」の姿などを丁寧に説明いただきました。そして、テーマは本日の核心であるSDGsに。17のゴールをめざすなかで「誰ひとり取り残さないことが重要」と強く訴えておられました。なかでも印象的だったのは、SNSの投稿を引用した「EQUALITY(平等)」と「EQUITY(公平・公正)」の解釈の違い。「これからの世界は『EQUITY』であるべき」と力説。さらには、SDGsの実現に不可欠なESD(持続可能な開発のための教育)について触れ、あらたな局面を迎えた社会において、教育の役割、なかでもESDの重要性を強調。とくにこの話題については、引率の先生がたも大きくうなずくところでした。最後には「持続可能な社会を求めて常に進むことが大切であるから、ESDは永遠の教育課題である」という教育者らしい結びで講演を終えました。



ワークショップ:生徒編

ファシリテーター 海藤 節生

東北地方ESD活動支援センター ESDコーディネーター／NPO法人 水守の郷・七ヶ宿 理事長

為せば成る 為さねば成らぬ何事も

後半は、座席をシャッフルしてワークショップがスタート。ここからはファシリテーター・海藤 節生氏によるガイドでSDGsについて学びました。はじめに各校の代表者が、自己紹介にあわせて自分たちの活動を詳しく紹介。今回のセミナーには12校もの参加があるだけに普通校や工業校、農業校と学科のタイプも多様。それだけ得意な分野が幅広くなるので、「環境」を共通のキーワードにしながらもさまざまな活動内容、その意外性に驚きの様子。ワークショップでは、各校の活動をSDGsの側面からグループ全員で評価、各人の名札へ該当するSDGsシールを貼る作業を経て、SDGsの理解を深めていました。はじめは初対面で緊張していましたがそこは高校生、また、的確なアドバイスをおくる海藤氏のサポートもあって楽しく学んでいました。最後は海藤氏から、米沢藩とゆかりがある興譲館高校にちなんで「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」(米沢藩9代藩主・上杉鷹山が詠んだ歌を引用)のエールが贈られ、SDGsへの理解と自分たちの活動に自信を深めた高校生でした。



ワークショップ:先生編

ファシリテーター 見上一幸

宮城教育大学名誉教授・前学長

先生がたの情報交換も大きな盛り上がり

高校生のグループと並行して、引率の先生がたによるワークショップでも活発な議論が繰り広げられました。ここでは、基調講演を終えたばかりの見上一幸氏が急きょファシリテーターとして議論を進行。高校生たちの例にならって自己紹介と詳しい活動内容を発表したあと、指導側ならではの問題点や課題などを報告・グループ討論していました。運動部とは異なり、情報交換する機会が少ない「環境」をテーマにした活動だけに、少しでも有意義な情報を得ようとする先生がたの熱心な姿が印象的でした。なかには、「もしもの異動を考えると……。そうした面でも活動自体を持続可能にしておかなくては」(遠野緑峰高校・村上先生)と切実な問題提起も。基調講演において、これからの教育の重要性が指摘されていただけに、先生がたにとっても数多くの気づきを得たワークショップでした。



参加12校のSDGs宣言

研修会の後半はワークショップを中心におこなわれました。学校ごとに座っていた高校生がシャッフルされ、あらたなグループのなかでみずからの活動内容をみなさんに披露。さらには、グループ内でSDGsの側面からその活動を評価し、理解を深めながら「高校生SDGs宣言」へとつながっていきます。

青森県立柏木農業高等学校 生活科学科

明石 彌久さん(3年生) 野呂 ほのかさん(3年生) 小山 優花さん(3年生)

津軽ダム建設の残土が裸地状態になっており、砂漠のようになっていきます。また、外来植物ニセアカシアが白神に入り、固有植物がなくなってきました。外来植物の排除や広葉樹を植えて、世界遺産・白神山地を守ります。

SDGs宣言

「私たちが白神山地を守る」



青森県立尾上総合高等学校 研究グループ「アースキッズ」

平山 唯晏さん(3年生) 大平 凜さん(3年生) 棟方 楓佳さん(3年生)

生物は一種類だけでは生きていけません。すべての動物や植物たち、虫たちと関わりあって生きています。生物多様性を守るには、私たちのイベントに参加してもらい、まずは家庭の生活レベルから生物多様性を意識してもらうことが重要と考えています。

SDGs宣言

「子どもたちに生物多様性の大切さを伝えていきたい」



岩手県立遠野緑峰高等学校 草花研究班

山蔭 仁哉さん(3年生) 佐々木 未悠さん(3年生) 菊池 優花さん(3年生)

私たちは、捨てられている物をあらたな資源として考えてもらえるように、自分たちの身のまわりから変えていきたい!

SDGs宣言

「すべては必要な物」



岩手県立大槌高等学校 インターアクト部、生徒会執行部

佐々木 加奈さん(2年生) 佐々木 慎也さん(2年生) 高清水 あいりさん(3年生)

復興研究会のさまざまな活動とおして大槌の復興・変化を360°の視点で観察、私たちにできることを考え、たずさわっていききたい。

SDGs宣言

「大槌の復興・変化にかかわっていききたい」



秋田県立大曲農業高等学校 生物工学科

高橋 佑誠さん(3年生) 鈴木 雅子さん(2年生) 高安 蓮さん(1年生)

・田沢湖の生態系を知るために、流入する沢の微生物調査、現在の田沢湖に生息する生物の食性を調べる。
・なぜ田沢湖の生物多様性が失われてしまったのかを知る人が少ないため、田沢湖の現状を知ってもらう必要がある。

SDGs宣言

「自分たちの活動を日本国内にとどまらず、世界中の人たちに広める」



秋田県立金足農業高等学校 科学部

中川 璃子さん(2年生) 菅原 帆乃香さん(2年生) 田中 友理さん(2年生)

現在の活動では、ハチミツの分析調査を通じてCCD(蜂群崩壊症候群)や地域環境の把握に重点を置いてきました。いままでは、ハチミツを残留農薬の基準値を超えない状態で販売していたが、より高い安全性を追求したいと思いました。

SDGs宣言

「ハチミツのより高い安全性の追求」



仙台高等専門学校 マテリアル環境工学科

鈴木 翼さん(3年生) 佐藤 徳哉さん(3年生) 狩野 元弥さん(3年生)

1人でさまざまな問題解決に取り組むことは難しい。しかし、たくさんの人が集まれば、いろいろな方向から見ることで、1人で解決できなかった問題も解決できる。SDGsの17番「パートナーシップ」の重要性を再確認できました。

SDGs宣言

「社会の基盤である材料分野を担う技術者になることを宣言します」



宮城県志津川高等学校 自然科学部

佐藤 利輝さん(3年生) 渡辺 洸人さん(2年生)

今回のワークショップをとおして、みなさんがさまざまな活動をしていることを知りました。また、私たちは松原干潟と八幡川でおこなっているフィールドワークの結果を10年後、20年後も比較できるデータとして残していきたいと思います。

SDGs宣言

「松原干潟と八幡川の調査を続けます」



山形県立米沢興譲館高等学校 SSクラブ

吉田 海人さん(2年生) 佐藤 空史さん(2年生) 須藤 達也さん(2年生)

今回のワークショップをとおして、特定外来生物やそれが環境に及ぼしている影響があまり知られていないことがわかった。地元の自然の豊かさや生態系を守り、知ってもらうためにマップを作り、地域に貢献したい。

SDGs宣言

「特定外来生物のことを広く知ってもらう」



創学館高等学校 モノづくり倶楽部

後藤 悠人さん(3年生) 笹原 颯斗さん(3年生) 豊島 大夢さん(3年生)

フィルムケースを再利用してオリジナルのLEDランプを製作し、ゴミの量を減らしたいと考えています。また、廃ペットボトルについてもオリジナルのお神輿を製作して地元イベントで披露、みなさんから喜んでいただいています。

SDGs宣言

「ものづくりの楽しさ」などをテーマに住みやすい街づくりを宣言します



福島成蹊高等学校 社会研究部

最上 礼菜さん(1年生) 佐藤 惇さん(1年生) 安彦 美優さん(1年生)

ひと口に「水問題」といってもさまざまな切り口があります。水資源の減少について福島県ができること、水の正しい理解を深めるために発信すべきことを探るなど、一人ひとりがそれぞれの課題解決のために動いていきます。

SDGs宣言

「水問題を解決する方法を模索し、実行します!」



福島県立平工業高等学校 生徒会

内山 瑛穂さん(1年生) 内山 瑞葵さん(3年生) 長谷川 凜さん(1年生)

私たちがおこなっている活動のように、視点を変えれば誰かの役に立つ資源がたくさんあります。一人ひとりがリサイクルと地球環境に対する興味・関心をもてば、世界中に笑顔の人が増えるはず! 2030年までに世界中の人々が笑顔になれるように活動を活発にしていきたいと思います。

SDGs宣言

「捨てる物を減らしてみんなの笑顔を守ろう~すべては喜んでくれる人たちのために~」



『近畿地区 大学生SDGsセミナー』

日 程 2018年7月7日(土)
会 場 (大阪・梅田) ハービスPLAZA 会議室
主 催 全国ユース環境ネットワーク事務局
(独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金)
共 催 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会
協 力 環境省 近畿環境パートナーシップオフィス(さんき環境館)
近畿地方ESD活動支援センター
阪急阪神ホールディングス株式会社
NPO法人いけだエコスタッフ

「SDGs」=持続可能な開発目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



2018年7月に、近畿地区で「持続可能な開発目標(SDGs)」の活動に取り組む大学生が大阪市に集まりました。

持続可能な社会を作り出すことを同じ目的としている仲間でも、活動内容も多様で、SDGsとどのようにつながっているか、また、近畿の大学生としてどのようにSDGsと関わるかを、社会人からの講演や学生同士での意見交換を踏まえ、理解を深めました。

基調講演

『阪急阪神ホールディングスグループの社会貢献活動』

講演名:「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」～持続可能な社会づくりのために～

講師名: 阪急阪神ホールディングス株式会社 人事総務室 総務部 社会貢献担当 相良 有希子

阪急阪神ホールディングスグループではグループ全体で進める社会貢献活動として「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」を実施しており、阪急阪神沿線を中心に、一人ひとりが関わる地域において、「未来にわたり住みたいまち」をつくることを目指しています。特に「地域環境づくり」、「次世代の育成」を重点的な領域としており、グループ各社や従業員、地域などの多様なステークホルダーとの協働により、単一の企業だけでは生み出せない大きな効果を得ることを目指しています。本プロジェクトの活動として、例えば地元企業と協力した省エネイベントや小学生向けのキャリア教育プログラム、従業員の募金を基にした助成金や交通広告での広報による、市民団体の活動支援などといった多様な活動を実施しており、様々なステークホルダーと連携して展開することで、SDGsにもあるような多様な手法を以ってして、地域の発展への貢献をしたいと考えています。



事例紹介

講演名:「NPO法人いけだエコスタッフの事例紹介」

講師名: NPO法人いけだエコスタッフ 理事長 庄田 佳保里

いけだエコスタッフは池田市環境基本計画の普及、啓発、実践のために2001年に発足した団体で、現在は「池田市立3R推進センター・エコミュージアム」の運営や、「いけだ市民共同発電所」の設置、環境講座や出前授業の開催、小学校の先生への支援などの環境学習事業、そしてSDGsや温暖化防止の活動を行っています。広く市民に環境保全の大切さを知ってもらう事業を行うことで、池田市内および周辺地域の環境保全を図り、地球温暖化防止に努め、持続可能で豊かな生活環境を実現することを目的に、人と人の輪を広げ、活動をしています。持続可能な開発に必要とされている5つのP(People, Prosperity, Peace, Partnership, Planet)を念頭に置きながら、SDGsの理念にもある「だれ一人取り残さない」を重視し、様々な人とのパートナーシップを築きあげながら、持続可能な社会の実現に向けた取組を続けます。



当日の研修内容

研修には7団体20人の学生が参加し、概要研修や基調講演を経てSDGsへの学びを深めた後に、大学生同士による自身の活動とSDGsとの関連性についての意見交換を行いました。活発な意見交換の後で、当日の研修を踏まえた団体ごとのSDGs宣言を作成してもらいました。

当日研修に参加した大学生



経短ごみゼロプロジェクト

高藤 陽さん

(京都経済短期大学経営情報学科 2年)

宮川 勢以さん

(京都経済短期大学経営情報学科 2年)

新谷 愛さん

(京都経済短期大学経営情報学科 1年)

地元の夏祭りや学園祭での屋台から出るごみを減らすために、リユース食器の導入をすめ、かつ実践する活動をしています。地域のお祭りを主催される住民の方へのプレゼンや説明、段取りの調整などの作業を、自治体の方のサポートを得ながら挑戦しています。お祭り当日においても、エコステーションでの分別や食器回収などを実施しています。これらの活動から得られた知見をもとに、今後も地域が持続的にごみを減らしていくことができる仕組みについて考えていきます。

SDGs宣言

リユース食器を使った世代間交流と、リユース食器に付随した環境問題の普及・啓発に取り組みたいと思います。私たちのリユース食器の貸し借りの活動を通じて、ごみが減るだけでなく、食器を借りる地域の高齢者とそれを受け取る若者との間に会話や交流が生まれるので、それをきっかけに地域福祉への貢献もできると思いました。高齢者と若者との世代間交流が深まれば、若者、高齢者が共に住みやすい街が作れるのではないのでしょうか。リユース食器の取組を学内から地域へと広める中で、多世代間の交流のきっかけや環境配慮に関する知識を学生、そして地域に提供したいと思っています。



京都大学 エコ〜るど京大

山口真広さん

(京都大学農学部 3年)

久保 文乃さん

(京都大学農学部 2年)

奥野 真木保さん

(京都大学農学部 1年)

団体の目的として、全員参加型の活動により学内の環境負荷を低減させることで、「持続可能なキャンパス」の実現を目指しています。目的達成のため、多様な視点から環境問題を考え、全学、そして地域も巻き込んだ活動を行っています。具体的には、学内外に向けたフリーマーケット、普段の食など持続可能性を繋げるイベント、たんに眠っている着物を寄贈してもらい次世代へとつなぐ企画などを行っています。

SDGs宣言

SDGsは多様なテーマを扱い、内容も世界規模とスケールの大きな話ではありますが、私達のような学生団体の活動とどう関連があるかを考えると、日々実施している地域を改善するような活動の積み重ねがSDGsの目標の達成へとつながるものだとわかりました。地域規模の活動が世界各地で実施されるようになれば、世界規模であるSDGsの目標は達成できるのではないのでしょうか。地域規模での取組を全て足し合わせることで、地球規模の問題を解決させるということが、私達が考えた答えです。



大阪大学環境サークルGECS

加賀 拓磨さん

(大阪大学経済学部 3年)

近藤 舞さん

(大阪大学文学部 2年)

宮原 昂希さん

(大阪大学工学部 2年)

私たちは「学生」という立場から環境問題の改善に貢献する」という理念のもと、大阪大学の豊中キャンパスを拠点に大学内外で環境活動を行っている大阪大学公認サークルです。私たちGECSに所属するメンバーは全員が学生です。その学生に何ができるのか。それは、「地域社会に貢献すること」だと思います。その地域に住み、その地域で暮らし、その地域に住む人々と触れ合いながら、私たちは現代の社会が抱える「社会問題・環境問題」という複雑で難しい問題の改善に日々取り組んでいます。

SDGs宣言

「行動から楽しくSDGsを考える」を私達の宣言としました。SDGsの特定の目標だけを意識して活動をしていても面白さや楽しさといった要素が足りない中で、「大学生も楽しめる」ことを重視したSDGsの取組を実施したいと思えます。イベントなどを通じて、SDGsという国際的な問題を考えるきっかけを提供することで、参加者一人一人の行動がSDGsに繋がるようなものになりたいと思います。「楽しさ」を前面に出すことで多くの方々に関心を持っていただき、多くの方を巻き込んで活動を実施したいと思っています。



大阪府立大学環境部エコ助

関 郁穂さん

(大阪府立大学生命環境科学部 3年)

北相模 誠さん

(大阪府立大学工学部 3年)

宇治田 理紗さん

(大阪府立大学生命環境科学部 1年)

環境部エコ助は設立17年目となる、環境活動を中心とした部活です。年間の活動は大きく分けて6つあり、農業、壁面緑化、自転車リユース、リサイクル弁当・ミッドポイントのリサイクル、環境教育、ごみ拾いです。短期の活動では、一年に二回ある学園祭で模擬店などから出る全てのごみの分別や管理、模擬店にエコパッケージを使ってもらいごみを減らすリデュース、子供向けの環境教育ワークショップなどを行っています。

SDGs宣言

SDGsという言葉は最近よく耳にしますが、学生の中では十分に浸透しているとは言えません。企業の方が行うような大規模な広報を行えばSDGsについて多くの方々に届けられると思いますが、私達学生が実施する小規模な広報においても、SDGsという言葉が届けられるようにしたいと思います。一つのSDGsの目標にだけ関連した活動を実施しても面白みを感じられないので、SDGsの17の目標を念頭に置くことで、一つの活動においても他のテーマとのつながりを持たせられるよう、今後も活動を続けたいと思います。



近畿大学農学部 学生団体FeeLink

野津 亮祐さん

(近畿大学農学部 3年)

市野 梨央さん

(近畿大学農学部 1年)

藤原 司さん

(近畿大学農学部 1年)

学生団体FeeLinkは、日々4つのプロジェクトに分かれて活動し、作物栽培・環境教育・緑地体創出・ビオトープ管理、など様々な視点から、環境啓発活動に取り組んでいます。また、プロジェクトごとの活動のみならず、団体全体で、様々な環境イベントへの参加、イベントの企画なども行っています。

SDGs宣言

本日の研修で日頃の活動を振り返ると、SDGsに関連した活動を数多く実施していることがわかりました。本研修をきっかけに今日参加した私達だけが気付いたものであるため、まずは本日の研修の内容を団体メンバーに共有し、団体内の意識を変えることから始めたいと思います。意見交換の際に、「SDGsは環境系の活動をしていないとなかなか知らない」という意見が多く挙がったため、SDGsに取り組む者としてもっと多くの人にSDGsを知ってもらい、その理念を積極的に普及させたいと思いました。今後のイベント出張時などでも積極的に発信を行いたいと思います。



環境サークル eco-SA

吉田 佳奈さん

(奈良女子大学理学部 3年)

富樫 直子さん

(奈良女子大学文学部 2年)

安藤 奈名彩さん

(奈良女子大学生活環境学部 1年)

「環境問題を身近だ」と思ってもらえるように、study&act!をテーマに、メンバー内で環境問題に関する情報共有を行ったり、様々な環境イベントに参加したりしており、学びと行動のどちらとも大切にしています。結成してからまだ4年目で、自分達のサークル主体の活動は少ないですが、環境問題について詳しくない人や、興味のない人でも、環境問題に関わってほしい!と思えるような活動をしていきたいと思います。

SDGs宣言

団体のテーマとして「学ぶこと」と「行動すること」は含めていましたが、新たに「広げること」を追加しました。SDGsという言葉は知っていましたが、具体的な内容であったり、どのような活動をすればよいかわからなかったため、まずはそのことをサークル内で考えたいと思います。今日の研修では地域内での連携の重要性に気付いたので、SDGsを地域の人達や学内の学生にも広めたいと思います。多くの方々に関わるべきテーマだと思つので、広めた人達みんなを巻き込むように活動を進めたいと思います。



三重大学環境ISO学生委員会

山中 晴名さん

(三重大学生物資源学部 2年)

近藤 大地さん

(三重大学生物資源学部 1年)

・3R活動として古本回収・再生可能容器「リ・リパック」の回収
・ごみ分別の推進・学内の放置自転車対策活動・清掃活動
・緑化活動として、屋上緑化・緑のカーテン・学内の落ち葉を利用した堆肥づくり
・地域の方々と協力する海岸清掃・地域の小学生への環境に関する授業の実施、地域の環境イベントへのブース出展などを通して、学生の環境意識の向上を目指しています。

SDGs宣言

SDGsはスケールが大きく、何をすればいいかがつかみにくい部分があるので、まずはグローバルな視点で自分達が住む地域に落とし込み、自分達の地域での活動を進めることにより、SDGsの17の目標の達成を目指したいと思います。SDGsの目標達成のための活動をするのではなく、日頃の活動一つ一つに取り組むうちに自然とそれがSDGsにつながれるようにしたいと思っていますので、その点を意識しながら今後の活動に取り組みたいです。



KIRIN

キリン株式会社

長野県丸子修学館高等学校

メルシャンのブドウ畑は草原でもあった！

ブドウの栽培を通して草原の生物多様性保全に貢献！

キリングroupのメルシャン自社管理ブドウ畑を長野県修学館高等学校のみなさんが訪問し、草原の重要性と生物多様性について学びました。

日本ワインのブドウ畑 梶子(マリコ)ヴィンヤード

キリンホールディングス株式会社は日本有数の飲料メーカーであり、グループの一員であるメルシャンはワインを製造しています。そのワインの中でも国産ブドウだけで作ったワインは日本ワインと呼ばれ、人気が急上昇しています。今回はメルシャンの日本ワイン用自社管理ブドウ畑 梶子ヴィンヤード(長野県上田市)を訪問しました。

梶子ヴィンヤードの歴史と草原

20ヘクタールの広さを誇る梶子ヴィンヤードですが、もともとは養蚕のための桑畑や薬用になんじん畑でした。しかし、農家の高齢化に伴い、畑が遊休荒廃地となり農家たちが困っていたところ、メルシャンが求めている気象条件の土地だと分かり、2003年に元の地形を残すように配慮しながら今のブドウ畑へ転換しました。メルシャンはブドウ栽培では環境負荷の少ない肥料の活用や減農薬栽培に努めてきました。

2013年にはメルシャンが所属するキリングroupで長期環境ビジョンを策定し、その中で「2050年までに、生物資源を持続可能な形で使用することを目指す」ことを1つのビジョンに掲げました。その具体的な取り組みの一つとして、2014年から梶子ヴィンヤードに国立研究開発法人 農研機構・農業環境変動研究センターの楠本良延博士を初めとする専門家を招いて生態系調査を始めました。調査の結果、垣根栽培のブドウ畑が栽培のために下草を生やし、年に数回草刈りを行うことで、ブドウ畑全体が「良質で広大な草原」として機能していることがわかりました。100年前には日本の国土の3割はあった草原ですが、現在は1%以下にまで減少しており、草原をすみかとする動植物は絶滅の危機に瀕しています。梶子ヴィンヤードのブドウ畑が草原として機能することで、多様な昆虫168種や植物258種が生息できる環境となりました。

草原と生物多様性

さらに、生態系調査では希少種も多く見つっています。植物では国レベルの希少種であるメハジキ、キスゲ、スズサイコが生息しています。今回の研修では、希少種のスズサイコや良質な草原の代表種と言われる「カワラナデシコ」が綺麗なピンク色で咲いているのが確認できました。また、長野県と阿蘇でしか生息が確認できていない絶滅危惧種であるチョウ「オオルリシジミ」の唯一の食草であるクララも生息しています。残念ながらまだ梶子ヴィンヤードではオオルリシジミを確認できていませんが、今後クララの保全が進むことで大いに期待ができます。今回の研修では見つけれられませんが、調査では絶滅危惧種のチョウ「ウラギンスジヒョウモン」なども見つっています。

希少種の植生再生活動

希少種が多く見つかったことを受け、2016年から従業員参加で植生再生活動を開始しました。方法は希少種の植え替えではなく、希少種や在来種が植わっていた場所の枯れ草を刈り取って集め、再生場所に蒔くだけです。こうすることで枯れ草の中に含まれる種が翌年芽を出します。2017年には在来種の定着を確認しました。今後は、芽が出るまでに時間がかかる希少種の定着や昆虫が移動する際に利用する緑地帯として機能することにも期待が高まっています。



長野県丸子修学館高等学校のみなさん
研修後、楠本博士と藤原シニアアドバイザー(キリン)と記念撮影



ブドウ畑の下には「良質で広大な草原」が広がっています



カワラナデシコ



クララ



研修風景

長野県丸子修学館高等学校 高校生環境宣言

研修を通して学んだことを今後に対する宣言として発表してもらいました。

自然に興味を持ち、自然を大切にする

宣言の理由

研修を通して、草原を広げたり、希少生物を保護する大切さを学びました。今の若者は自然に興味がないので、まずは一人ひとりが自然に興味を持つことが大切だと思い、この宣言にしました。

感想



小山 月也さん(3年)

最近草原がとても少ないという話を聞き、(メルシャンが)増やすような努力をたくさんしているのが、とてもよかったと思います。希少価値のある植物が見れてよかったです。



磯 龍紀さん(3年)

今日の体験を通してクララなどの希少な生物などをよく知れたので、これからはその知識を活かして自然に興味を持っていけたらいいなと思います。



上原 正代さん(3年)

今回の生態系調査を通して、枯れ草を刈り取って集めておくことによってまた植物が再生できることを初めて知ったので、今後そういう活動があるなら参加してみたいと思いました。



齋藤 秀彦さん(3年)

普段の生活では体験できない、貴重な体験ができてよかったです。



西澤 友弘さん(3年)

全国で1%しかない草原を地元の丸子で実際に見れてよかったと思います。



山辺 千笑さん(3年)

今日はクララという生物を知れたことが一番の嬉しいことで、もう少し勉強すればもっと理解が深まったのかなと思いました。でも楽しく学べたのでよかったです。

「持続可能な開発目標 (SDGs= Sustainable Development Goals)」



「持続可能な社会」の実現に向けて企業はどのように取り組んでいるのでしょうか？
今、「SDGs時代」と言われています。ここでは、＜全国ユース環境ネットワーク＞の
協賛企業・麒麟株式会社のSDGsへの取り組みをご紹介します。
掲載内容は一例ですが、みなさんのこれからの活動の参考になるのではないのでしょうか。

参考事例

『持続可能な社会』の実現を目指す麒麟株式会社の取り組み

詳しくは、
麒麟株式会社の
HPをご覧ください。

KIRIN 麒麟株式会社 (麒麟ホールディングス)

私たちのCSVコミットメント

私たちは、社会と共に持続的に成長していくため、長期経営構想「新・麒麟・グループ・ビジョン2021」において、CSVを経営の根幹に位置付けています。このたび重点的に取り組む社会課題として「健康」「地域社会への貢献」「環境」及び酒類を扱う企業グループの前提として「酒類メーカーとしての責任」を選定しました。それらの社会課題について、「持続可能な開発目標」(SDGs)等を参照しながら、事業を通じて中長期的に目指す姿を明らかにする16のコミットメントを策定しました。また、コミットメントの達成に向けた具体的なアプローチ及び成果指標を定めました。私たちは、グループ一丸でこのコミットメントに取り組むことにより、お客様の幸せな未来に貢献することを目指します。

～環境活動の事業戦略への反映～ (16のコミットメントの中の一例)

SDGsの目標と麒麟のコミットメント



<SDGs13 気候変動に具体的な対策を>

再生可能エネルギーの導入をはじめとした更なる温室効果ガス (GHG) 排出量削減の取り組みを進めます。



<SDGs15 陸の豊かさを守ろう>

原料生産地と事業地域における自然環境を守り、生態系を保全します。



<SDGs6 安全な水とトイレを世界中に>

生産活動における水使用量を削減するとともに、水源地の保全活動を継続的にを行います。



<SDGs12 つくる責任つかう責任>

容器包装の軽量化を継続するとともに、材料の非再生資源依存を低減し、持続性を高めます。

容器包装材料の持続性向上を目指し

2020年までに紙容器すべてを FSC® 認証紙へ

キリングroupは長期環境ビジョンのテーマである「容器包装」について、「持続可能な容器を使用します」という目標を掲げ取り組みを進めてきました。
2017年2月には、すべての紙容器でFSC認証紙採用を目指すという「行動計画」を発表し、材料そのものの持続性向上にも取り組みを加速させています。



すべての紙容器で FSC 認証紙採用へ

FSC認証は、森林の環境保全に配慮し、森林のある地域社会の利益にかなう、経済的にも継続可能な形で生産された木材や紙に与えられるもの。キリングroupは、2020年までに、すべての紙容器でFSC認証紙への切り替えを目指すことを明らかにしました。

FSC認証紙を使用した
「トロピカーナ 100%
まるごと果実感」シリーズ
900ml 紙容器



飲料6缶パックも
FSC認証紙が進展
(写真は缶コーヒー
「麒麟 ファイア」)



「2050年代の社会を創造する コロンブスの卵を産む次世代の担い人へ」

環境省大臣官房民間活動支援室長 佐藤 隆史

いま、私たちは、「明治維新」そして「終戦」以来の大きなパラダイムシフト
(それまでの普通が普通でなくなる、大きな考え方の転換)の時を迎えようとしています。
こうした社会変革の過渡期の真ただ中で、私たちは何を感じ、何を選び、
2050年の社会を創造するため、何に挑戦しなければならないのでしょうか？



環境省がまとめた冊子「Eggs」では社会課題解決型ビジネスの事例が紹介されています。

日本は・・・

本格的な少子高齢化・人口減少、ユース層の都市部への流入超過による人口の偏在化など、成熟社会への大きなパラダイムシフトを迎え、人類がこれまで経験したことのない歴史を歩み始めています。それらは、AIやIoTのような課題解決につながる高度な技術イノベーションだけでなく、私たちの生活はもとより、人類の生存基盤である地球環境へも大きな影響を与えてしまう「社会課題」という形で私たちの目の前に立ちはだかろうとしています。

世界では・・・

「社会課題」の解決を起点としたビジネスモデルが大きくなつてきています。こうした世界の潮流の中、2015年に国連サミットにおいて採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」は、「誰一人取り残さない」持続可能な社会を実現するために、環境・社会・経済の個々の課題を解決するのではなく、三つの側面における広範なそれぞれの課題の同時解決に向け、統合的に取り組むことを目指したものとなっており、世界各国における着実な実践が求められています。

社会課題は誰のものですか？ 誰が解決しなければならないのでしょうか？

2011年3月11日の東日本大震災の経験により、「震災復興」というキーワードと共に、社会課題を解決するのは行政だけでは困難であることに気づき、ビジネスによる持続的な社会課題解決への取り組みに対する社会的関心は一層の高まりをみせました。

こうしたビジネスの多くは新規性に富み、あるいは斬新でコロンブスの卵的な発想を伴い、日々その規模を大きく、多様化させ、社会に大きなインパクトを与え始めています。

「社会課題は誰のものなのか？ 誰が解決しなければならないのか？」日々、自分に問いかけてみて下さい。そして、コロンブスの卵のようにゼロから1を産み出す勇気と決断をもって、社会課題を解決する「次世代の担い人」として、ユースの皆さんも、実社会という海原へ漕ぎ出して下さい。

「全国ユース環境活動発表大会」に参加されている皆さんは、すでに社会課題の解決に取り組もうとする「次世代の担い人」たちの仲間と言えます。9月より環境省が主催する「第4回 全国ユース環境活動発表大会」の募集を開始します。日頃の活動を社会課題と結びつけ、誰にとつての課題なのか、なぜ自分がそれを解決しようとしているのか、しっかりと考えて発表して下さい。そして、地方大会、全国大会で全国の仲間たちと、ゼロから1への挑戦を楽しんで下さい。

徳島商業高等学校の
カンボジアでの「希望の工場建設プロジェクト」、
現地の学校経営継続を支援するために、
ゼロから1の発想で現地でのビジネス成功をめざす。



佐賀商業高等学校の
「SAGA藻わたしのみらい」プロジェクトは、
地元行政、地元企業との連携・協働により、
環境問題の解決と地元産業の活性化の同時解決をめざす。



人と自然が共生する社会を目指して SATOYAMA イニシアティブの取り組み



国連大学サステナビリティ高等研究所
プログラム・アソシエイト

天野 陽介

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)は、東京を拠点とする研究・教育機関です。

「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という

3つのテーマのもと、政策対応型の研究と能力の育成を行っています。

今回は、UNU-IASの取り組みの一つである「SATOYAMA イニシアティブ」をご紹介します。

Republic of Peru



ペルーで開催した地域ワークショップの様子

Kingdom of Bhutan



ブータンの里山の風景

地球上には様々な生態系が存在し、これらの生態系に支えられた生物が500万から3,000万種存在するといわれています。進化の過程で多様化した生物の中には、人間活動によって絶滅の危機に瀕しているものがあります。しかしその一方、里山のように長い時間をかけて人々が自然と寄り添いながらつくりあげられた環境では、人間の活動が生物の生存に欠かせません。人と自然の相互作用によって維持されている環境は、形や言葉が違えど世界中に存在し、それらを学術界では「社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ(SEPLS)」と呼んでいます。SEPLSは世界各地に存在し、生物多様性の保全や人々の暮らしの向上に大きな役割を果たしています。2008年まで国際社会では、原生的自然の保護区設定や希少生物保護などの議論が中心でしたが、二次的な自然環境にも注目し、国連大学と環境省は人と自然が共生する社会を目指す「SATOYAMA イニシアティブ」を国際社会に提唱しました。

この考え方を推進し実現していくために、2010年に愛知県名古屋市で開催された第10回生物多様性条約締約国会議の機会に、SEPLSの保全に取り組む世界中の団体が協力し合う「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPSИ)」が設立され、国連大学サステナビリティ高等研究所がその事務局を担っています。2010年の設立当初、51団体からスタートしたIPSИは230団体(2018年8月時点)までに成長し、多様なメンバーの連携を促すことで相乗効果を創出し、より効果的な取り組みが世界各地で実践されることが期待されています。メンバー間の協力を得て、これまでに以下のような活動を実施しています。

1. IPSИ定例会合や地域ワークショップ実施

アジア、アフリカ、ヨーロッパ、南アメリカなど、各地域のメンバーと事務局が共催で、それぞれ地域の特性や共通性を見出すワークショップを行いました。

2. 助成金プロジェクト

資金不足や、助成金申請の経験不足、活動に見合ったサイズの助成金がないなど、様々なメンバー団体のニーズを受けて、シード・ファンディングの助成金プロジェクトを立ち上げました。

3. SEPLSにおけるレジリエンス指標に関するツールキット作成

ワークショップ形式により、住民が自らコミュニティのレジリエンス(回復力)を評価し、議論を行うことで、地域への住民間の共通理解を高め、地域の問題解決に向けた行動を促進することを目的としてデザインされたツールキット(マニュアル)を作成しました。

4. ケーススタディ集作成

現場での活動から得た教訓や課題は、IPSИにとって貴重な財産です。これらの学びを研究機関メンバーのサポートを得ることによって学術レベルのケーススタディに仕上げ、より多くの方に読んでもらう取り組みを行っています。

▶活動の詳細は、satoyama-initiative.org でご覧いただけます。

全国ユース環境ネットワーク

～ 高校生の環境活動を応援しています～

平成30年度 全国ユース環境活動発表大会

参加高校生募集中!

くわしくはP2～6を
ご覧ください

地方大会

大会初! 今年は全国各地で大会を開催します

11月18日(日)
近畿地方大会(大阪)
中国地方大会(広島)12月9日(日)
九州・沖縄地方大会(福岡)
中部地方大会(名古屋)11月11日(日)
北海道地方大会(札幌)
東北地方大会(仙台)12月16日(日)
関東地方大会(東京)
四国地方大会(高松)

全国大会

各地方大会の上位2校が全国大会へ

2019年2月9日(土)・10日(日) 東京都渋谷区、国連大学で開催決定!

主催 全国ユース環境活動発表大会実行委員会

(環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステナビリティ高等研究所)

後援 読売新聞東京本社

協賛 キリン株式会社 / 協栄産業株式会社 /

SGホールディングス株式会社 / 三井住友海上火災保険株式会社

KIRIN

KYOEI

SGH

MS&AD
三井住友海上出場
大学生
募集!

第16回 全国大学生環境活動コンテスト

日時: 2018年12月23日(日)、24日(月・祝)開催!

独立行政法人
環境再生保全機構
共催

「全国大学生環境活動コンテスト」は、全国の大学生の環境活動の発表・交流・学習を行うコンテストです。学生だけでなく企業、行政、学識経験者、環境団体などの社会人の選考委員を交えて、1年間実施した活動の振り返り、評価を行います。コンテスト以外にも学生同士の交流イベントも実施しています。当日の見学のみの受付も行っておりますので、大学生、高校生の幅広いご参加をお待ちしております!

2018年10月1日から募集開始!

応募・詳細はこちら! → <http://www.ecocon.info/2018/>

<お問合せ> 東京都港区西新橋2-11-5 TTK西新橋ビル3F (株)ダイナックス都市環境研究所内

TEL:03-3580-8284 FAX:03-3580-8265 Mail:support@ecocon.info URL:http://www.ecocon.info/



環境省からのお知らせ

3Rの取組の環を広げる Re-Styleサポーターを募集しています!

くわしくは>>> [Re-Style](#)

Re-Style

限りある資源を未来につなぐ。今、僕らにできること。

循環型社会推進応援ソング
巡り巡った環の中に

環境再生保全機構からのお知らせ



地球環境を守るために、地球環境基金の「つながる募金」にご協力ください。

「つながる募金」は、スマートフォンを利用して100円から寄付いただけるサービスです。地球環境基金への寄付を通じて、環境NPO・NGOの活動をご支援ください。



ソフトバンクの方



つながる募金



ドコモ・auの方

環境情報誌について

この環境情報誌は、「全国ユース環境ネットワーク事務局」より、全国の約5,000高校、約100大学サークル、および全国で環境活動を推進しているユースの方々にお送りしています。みなさまの環境活動に関する情報やご意見などを、どうぞ事務局までご連絡ください。



高校生の皆さん、各地方の大会でお会いできるのを楽しみにしています!

全国ユース環境ネットワーク事務局スタッフ

発行

全国ユース
環境ネットワーク
事務局

〒212-8554 川崎市幸区大宮町1310番 ミューザ川崎セントラルタワー8階
独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金内 全国ユース環境ネットワーク事務局
Tel:044-520-9505 メール: youth@erca.go.jp

URL: <https://www.erca.go.jp/jfge/youth/index.html>

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

VEGETABLE
OIL INK